

【算数科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 単元のまとめでは、ステップ学習のたしかめプリントを使用し、学習の定着度合によってチャレンジプリント、フォロープリントに取り組みさせた。ベーシック診断テストを学期に1回行い、児童一人ひとりの習熟度合いやクラス、学年の領域別課題を担当が把握し、日々の学習に活かすことができた。
- 問題解決型の流れに沿った指導を学校として取り組み、共通した指導方法を全学年実施してきた。それに伴い、ノートのとり方についても、共通の書き方を指導することで、指導者が変わっても同じ指導ができるようにした。
- 自力解決で絵や図などを用いることにより、立式の根拠を明確にする。また、自分の考えを説明する活動を多く取り入れることで、根拠をもって自分の言葉で説明できる児童が多くなった。さらに、友達の考えを聞くことにより、より良い考えを選び出すことができるようになった。
- △説明する児童が一部に固定化されがちな点は、改善する必要がある。自力解決が難しい児童の支援の方法についてスモールステップの学習課題を用意する必要がある。

2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	算数への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
調査結果の分析	算数への関心・意欲・態度は、目標値を平均19P上回っている。学年によっては、かなり高い数値を示しており、算数への関心・意欲・態度が高いことが分かる。	数学的な考え方は、3学年全てで目標値を上回っており、平均で24.5P上回った。特に6年生は、28P目標値を上回り、数学的な見方や考え方が、定着していることが分かる。	数量や図形についての技能は、どの学年も目標値を上回っており、平均で16.3P上回った。6年生は前年度の校内平均正答率より平均7P上回っているが、4、5年は、平均4.2P下がっている。	数量や図形についての知識・理解は、どの学年も目標値を上回っており、3学年平均で16.9Pである。また、6年生は前年度の校内平均正答率より平均4.3P上回っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」の領域のうち、特に小数のかけ算の計算の定着を図ることが課題である。 ・資質、能力の面では、見通しを立てて考える力を更に高めていくことや、学んだ知識を問題解決に活用していく力を身に付けることが課題である。 			

3 授業の具体的な改善策

目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の現象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常の現象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>
全体	既習事項を生かし、問題解決をする力を身に付けるために問題解決型の授業を進める。筋道を立てて説明する資質能力を育成するために自分の考えを発表する、友達の考えを聞き、より考えを深める授業を進める。
学年段階別改善策	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を十分確保し、絵やテープ図、式、自分の言葉などで自分なりに表したり、伝えたりできるようにする。 ・具体物の操作を多く取り入れることにより、根拠を明らかにし、確実な知識にしていく。 ・ノートの書き方を共通することにより、学習の基礎を養う。 ・計算の基本となるたし算やひき算、かけ算九九は、繰り返し学習し、着実な定着を図る。
中・高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもつ→自力解決（絵、図、式等）→友達と考え方の交流→全体の交流→検討→類似問題という自立的・協働的な問題解決の流れを授業の中で取り入れ、筋道を立てて論理的に考える力を身に付けさせる。 ・習熟度別指導の特性を生かし、習熟の度合いにあった教材や支援方法を考える。担任や算数少数人数指導担当教員、補習講師の連絡を密にし、児童の習熟状況を見取り、個別に対応する。